



つなつな通信 Hyogo

「つなつな通信」のつなは「つなぐ」「つなげる」「つながる」「つながり」のつなです。
多職種が互いにしっかりとつながり、情報や思いを共有し合える強固で継続的な連携が進むようにと思いを込めました。

前略研修会より

令和7年度兵庫区医療介護連携推進協議会研修会 日時:令和7年9月18日(木)17:30~19:30
参加115名 場所:楠公会館(菊水の間)

講演 「ACPと成年後見制度」 座長 濱野 聖二先生(神戸市兵庫区医師会)

講師 藤井 芳典先生(司法書士法人 神戸栄町事務所代表社員)

講演では、成年後見制度の基本的な仕組みについて、後見・補佐・補助の違い、また、将来に備えて本人の意思を反映させができる任意後見制度や、財産管理の一つの方法として注目されている家族信託についても紹介され、具体的な事例を交えながら理解を深めることができました。



ACPにおける後見人の役割は、本人に代わって判断を下すことではなく、本人の意思や価値観を擁護し、それを医療・介護チームに伝えることであり、後見人は、本人の最善の利益を常に念頭に置き、本人の価値観に反する対応が行われないよう、権利擁護の視点をチームにもたらす重要な存在であると理解できました。また、後見人も本人を中心としたACPを進めるためのチームの一員であり、多職種と相互に情報を共有し、継続的に話し合いを重ねることで、本人の意思が尊重された質の高いACPにつながることを学びました。今後はこの学びを生かし、後見人を含む多職種と連携しながら、本人の尊厳と意思を大切にしたACPの取り組みに関わっていきたいと考えます。

令和7年度兵庫区防災研修会

日時:令和7年8月21日(木)15:00~17:00

参加119名 場所:みなとがわホール(兵庫区役所2階)

共催:兵庫区医師会、兵庫区歯科医師会、兵庫区薬剤師会、兵庫区役所、兵庫区医療介護サポートセンター

講演 「誰一人取り残さない防災を目指して」 座長 妹尾 栄治先生(神戸市兵庫区医師会)

講師 立木 茂雄先生(同志社大学社会学部教授)

本研修は、誰一人取り残さない防災の基本を学ぶとともに、今後取り組むべき課題について考えることを目的として実施されました。医療・介護・福祉・行政関係者のみならず防災コミュニティ、民生委員、自治会、障害団体の方など多数ご参加いただきました。

講演ではまず、統計資料をもとに、過去の災害において障がいのある方の死亡率が高く、根本原因是平時の福祉と防災危機管理の分断にあるというお話をありました。そのうえで、「誰一人取り残さない防災」を実現するための基本的な考え方や、地方における具体的な取り組み事例、避難訓練の実践例が紹介されました。さらに、災害時に求められる「合理的配慮」についても触れられ、令和時代の災害対策の要点として「真に支援が必要な方」を行政主導のもと、専門職が参画し地域と協働して支える体制づくりの重要性をお話いただきました。

質疑応答では、個別避難計画書が作成されていても実際の避難行動や訓練が十分に行われていない現状や、今後の市の取り組み、地域住民の理解を深めるための方策について質問がありました。

立木先生からは、介護サービス利用者の多い地域ほど災害死が減少する傾向があるというデータを示され、ケアマネジャーの役割の重要性が説明されました。また、行政・福祉・防災が一体となった支援体制の必要性や、本人同意のもとで「誰を、どのように避難させるのか」を具体的に考え、訓練を行うことの重要性が強調されました。

続いて、妹尾先生より災害時神戸メディカルチーム(D-KOMET)の説明と登録の呼びかけが行われ、医療・地域・行政が連携した災害対応の必要性が改めて共有されました。

本講演は、防災を日頃の支援や地域連携の延長線上で捉え直し、誰一人取り残さない防災の実現に向けて今後の取り組みを考える有意義な機会となりました。

前略研修会より

令和7年度感染症対策研修会 参加58名

日時：令和7年5月22日（木）14時～15時30分

場所：神戸市医師会3階

講演「感染対策はじめの一歩」

講師 高橋 尚子氏（神戸百年記念病院 感染管理認定看護師）

はじめに兵庫区保健福祉課より、最新の感染症の流行状況と感染症神戸モデル発生状況についてご報告いただきました。

ご講演では、感染症に関する基礎知識や患者と医療従事者双方の安全確保のために感染対策が不可欠であること、特に、すべての血液・体液を感染性があるものとして扱う

「標準予防策」の重要性を学びました。さらに、マスク着用、手指衛生、個人防護具の正しい使用法についてご説明いただき実技を行いました。基本的対策を日常業務で確実に実践する重要性を再認識する研修となりました。



神戸市感染症
統合情報システム



多職種交流会 兵庫区から 25夏 参加84名

日時：令和7年6月26日（木）14時～16時

場所：みなとがわホール（兵庫区役所2階）

兵庫区内の特養・老健・介護医療院の方より施設の特徴、入所条件等ご説明いただき理解が深まりました。

グループワークでは入所が難しい事例や入所時に起こる問題等、意見交換が行われ課題の共有ができました。

今後も多職種や同職種での交流会開催希望の意見を多数いただきました。来年度も夏頃開催予定です。



第4回 暴力・ハラスメント対策研修会 参加58名

日時：令和7年7月10日（木）14時～15時30分

場所：みなとがわホール（兵庫区役所2階）

講演「暴力ハラスメント対策研修会-自宅訪問の事例から学ぶ-」

講師 藤田 愛氏（北須磨訪問看護・リハビリセンター所長）

暴力の定義や実態、自宅訪問時のリスク、対応指針、被害者への対応等解説いただき、暴力に対する価値基準の合意形成や危険予知トレーニングを実施し意見交換が行われました。



利用者の背景や先入観に捉われることなく、起きている事実を丁寧に受け止めることの重要性を学びました、背景や立場による思い込みは被害を軽視したり、訴えを否定してしまう要因となり得るため、常に客観的な視点を持つことが求められることを理解しました。また、ハラスメントへの不適切な対応や不用意な言動が、被害者に更なる苦痛を与える二次被害につながる可能性があることを学び、組織全体として意識を変えていく必要性を強く認識しました。ひとりひとりが正しい知識と共に認識を持ち、安心して相談できる環境づくりに努めることが重要であると感じました。

令和7年度ACPサポーター養成講座 参加29

日時：令和7年11月27日（木）17時～19時

場所：みなとがわホール（兵庫区役所2階）

各催：兵庫区医師会・兵庫区歯科医師会・兵庫区薬剤師会・

ACPのこれからを話し合う会・兵庫区医療介護サポートセンター

講演「人生会議」-アドバンス・ケア・プランニング-

講師 濱野 聖二先生（神戸市兵庫区医師会）

講演ではACPの意義や、死に方ではなく生き方を考えることをお話いただきました。

「もしバナゲーム」では、参加者が「もし今、あと半年の余命と宣告されたら…」

という設定で自分の価値観や生き方を考えました。

アンケートでは「もっと早く知りたかった」「楽しく学べた」「事業所でも取り組みたい」との声が多数寄せられ、初めてACPを学ばれた方々にも理解を深めていただけました。



区民健康のつどい開催報告

なるほど・ザ・兵庫区

「震災から30年 もしもに備えるクイズ大会」

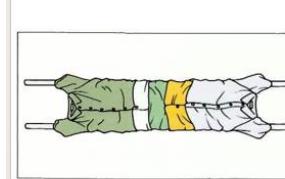
日時：令和7年10月18日（土）14:00～15:10

場所：みなとがわホール（兵庫区役所2階）

第16回となる今回は、市民の方に災害への備えについて寸劇とクイズで楽しく学んでいただきました。

簡易担架の作り方、AEDの使い方、簡易トイレの作り方等が盛り込まれた劇には納得の声や笑いが起こっておりました。

来年度もぜひご期待ください。



出典：古城山地区消防署

サポートセンターは見た！ 以下、短めの記事風にまとめました。

「兵庫区地域ケアネットワーク定例会」の秘密

今年度の兵庫区地域ケアネットワーク定例会のテーマは「『困った人』ほど困っている」です

第1回 令和7年5月24日開催 担当部会：グループホーム連絡会

施設の役割や取り組みが紹介された。兵庫区内に9施設あるグループホームの連携状況が報告され、運営や空き状況、感染症対策、地域交流などを定期的に共有していることが説明された。あわせて、動画を用いてグループホームの特徴や、少人数で家庭的な介護が受けられる一方、医療対応には限界がある点などが紹介された。

当日は区内6施設を中心に、理念や日常の取り組み、外出支援や地域交流、医療連携など各施設の特色が発表され、利用者一人ひとりの「その人らしい暮らしを支える工夫」が共有された。

質疑応答では、入所時の認知症レベルや施設内トラブルへの対応について質問があり、家族や地域との連携が安定した生活につながるとの意見が示された。また、空き状況などは各施設が直接対応可能であり、気軽に相談してほしいとの呼びかけがあった。本定例会を通じ、グループホームと地域が支え合いながら、安心して暮らせる環境づくりを進めていく重要性が改めて確認された。

第2回 令和7年7月19日開催 担当部会：歯科医師会 - 「食べる力」を支える多職種連携を学ぶ

「何で食べないの？～訪問歯科医師と一緒に考えよう～」をテーマに、なかたに歯科クリニックの三浦康寛医師による講演が行われた。

講演では、摂食嚥下障害は単なる「飲み込みの問題」ではなく、栄養状態、口腔環境、心理面、認知機能などが複雑に関係していることが説明された。「食べたくない」「食べられない」「食べたいが食べられない」という視点で原因を整理し、健康寿命の延伸には栄養・運動・社会参加の3要素が重要であると強調された。

続いて、訪問歯科での実際の事例が紹介され、認知症による意欲低下、義歯不適合、既往歴の影響など、それぞれ異なる背景に応じた評価と対応の必要性が示された。食事時間や環境の調整、口腔ケアの見直し、嚥下リハビリの導入など、本人の状態に寄り添った支援の工夫が共有された。

また、口腔周囲筋のリハビリやオーラルフレイルの早期発見、食形態やとろみの適切な調整についても具体的な説明があり、日常支援に活かせる実践的な内容となった。本定例会を通じ、「食べる力を支える」ためには多職種、家族が連携し本人の希望を尊重しながら支援を続けていくことの重要性が示された。

第3回 令和7年9月20日開催 担当部会：福祉用具貸与販売事業所連絡会

「本人の安全な在宅と、家族の介護負担を軽減するには、どんな支援が考えられるか？」をテーマに福祉用具の活用と具体的な事例を通じて支援の在り方を検討した。

最初に徘徊感知機器「みまもりキューブS」の紹介があった。要介護2以上で導入が可能であり、要介護2以下の場合も保険外サービスとして利用できる。ネット接続一体型のため玄関・ベッド・リビングでの服薬確認、入浴見守りなど、最大4台まで活用できる点が特徴である。また、内蔵スピーカーを通じて、外出しようとする本人に家族が声をかけることができ、徘徊の抑制につながる機能も紹介された。動作の有無による検知設定により、転倒検知としての利用も可能である。導入検討者向けに、通信料を会社側が負担する1週間のデモ設置が提供される点も参加者の関心を集めた。

事例検討会では認知症により不安や妄想が強くなったケースをもとに、グループで検討を行った。福祉用具を活用した環境調整、サービス内容の見直し、本人の不安や孤独感に配慮した関わりの重要性が確認された。

本定例会は、本人の安全な在宅生活と家族の介護負担軽減を実現するため、福祉用具・サービス・人のつながりをどう組み合わせるかを改めて考える機会となった。

第4回 令和7年11月15日開催 担当部会：訪問介護支援事業所連絡会 - 在宅サービスと成年後見制度

司法書士法人神戸栄町事務所の藤井芳典先生を講師に迎え、講義と事例検討が行われた。

訪問介護など在宅サービスの現場では、認知症のある方、家族に対して法的課題に直面することが多い。そうした兆候に気づくためには、「お金のことは関係ない」と線を引かず、「気づいた人が最初の支援者」であるという意識を持つこと、そして地域包括支援センター・司法書士に早めに相談する姿勢が大切であると説明があった。

続いて、高齢者の財産管理に関する諸制度について説明が行われた。成年後見制度の利用者は全国で約25万人にのぼり、後見人の業務には財産管理や身上監護、定期的な家庭裁判所への報告などが含まれること、申立てには一定の費用がかかることも説明された。藤井先生からは、「訪問サービスの現場こそが権利擁護の出発点であり、司法書士は気づきから行動につなげる存在である」とのメッセージが伝えられた。

後半は、高齢の母と精神疾患のある子による二人世帯の事例をもとに検討会を行った。成年後見制度を利用する上で、医療や行政手続き、金銭管理が円滑になり、本人の生活を支えやすくなることが確認された。

質疑応答では、現場で直面しやすい疑問が多く出され、成年後見制度は万能ではないものの、本人の自己決定を尊重しながら、専門職チームで丁寧に関わることの重要性が共有された。

本定例会は、在宅サービスの現場で生じる「気づき」を、法的支援につなげる視点を学ぶ機会となった。

次回の兵庫区地域ケアネットワーク定例会はシンポジウムです。

日時：3/21(土) 14:00～16:00

第1部 講演「認知症・精神疾患でのお困りの方へのアプローチ」

場所：みなとがわホール(兵庫区役所2階)

第2部 各職種の取り組みの振り返り

※兵庫区地域ケアネットワークとは・・・介護保険法の施行等新たな制度環境の中で、①保健・医療・福祉サービス事業に関わるものが、相互の協力関係を確保し、②各種サービス事業、地域の保健・医療・福祉活動、及び行政施策などに関する情報を共有し、③サービスの質的向上とサービス利用調整機能の向上を目指し、関係者による横断的連携のもと、地域包括ケアシステムの構築を図ることを目的とし、賛同する関係団体等によって構成されています※兵庫区地域ケアネットワーク定例会は、地域ケアネットワークに所属する関係団体が2か月に1回開催している研修会です。

研修会開催予定

開催予定・日時場所	テーマ
R8.2月26日 (木) 18時～19時30分 兵庫区役所2階 大中会議室 (荒田町1丁目21-1) 申込要(2次元コードよりお申し込みください)	令和7年度多職種連携研修会 テーマ：褥瘡皮膚トラブル対策 講師 畑中 文恵氏 (兵庫県看護協会尼崎訪問看護ステーション) 「褥瘡皮膚トラブル対策と多職種連携」 お申込用2次元コード 講師 福島 飛鳥氏 (介護老人保健施設 鶴芭) 「ケアに活かすポジショニング」 
R8.3月12日 (木) 14時～15時 兵庫区医師会会議室 (大開通1丁目1-1 神鉄ビル11階)	ドクターとお茶しませんか？ ほっとお茶会 #1 普段はゆっくりお話しできないドクターとのお茶会を開催します。 詳細は調整中です。ご期待ください ❤
R8.3月14日 (土) 14時～16時 (13時30分開場) 兵庫区役所2階 みなとがわホール (荒田町1丁目21-1) 申込不要	楽しく学ぼう 落語で人生会議 講師 介護亭 楽珍 (かいごって らくちん) 主任ケアマネジャー 講演「人生会議とは？」 創作落語「三途の川の渡り方」 

「兵庫区医療介護サポートセンターって何？」と思われている方々へ

医療介護の専門職の皆さまからのお問い合わせやご相談に対応しています。

 こんなご相談がありました。

現在骨折で入院中、退院後は訪問診療必要と思われるが
かかりつけ医は訪問されておらず断られたため紹介希望。

⇒ 住所に近く訪問診療されている診療所を複数紹介しました。

お気軽にお電話ください
078-575-5711



Hyogoku三択クイズ 三択王におれはなる!!

1. 兵庫県の面積(8.401Km²)に一番ちかい国は？

- A. トリニダード・トバコ  B. キプロス  C. ドミニカ共和国 

2. 兵庫区にある関西名物○○饅頭と言えば？

- A. 人工衛星 B. データ中継技術衛星 C. 天文衛星

3. 2024年にノエビスタジアム神戸でライブを行ったアーティストは？

- A. ウルフルズ B. あいみょん C. Mrs.GREEN APPLE



答え 1.B A 4.827Km² B 9.251Km² C 4.87Km² のため正解はBのキプロスになります。

2.A 兵庫区の○○饅頭と言えば上沢通1丁目にある大吉屋さんの人工衛星饅頭です。
外はカリカリ、中はふわふわの饅頭です。ぜひご賞味あれ。

2.C Mrs.GREEN APPLEは2024年7月6日、7日にノエビスタジアム神戸でライブを行いました。
横浜との4公演で計15万人を動員しています。

兵庫区医療介護サポートセンターは、医療、介護、福祉の関係者の皆さまからの在宅医療に関するお問い合わせ・相談への対応や、各種の研修、市民の方への在宅医療・介護に関する普及啓発などの業務を行っております。
医療・介護・福祉関係者の皆様、お気軽にお問合せください。

兵庫区医療介護サポートセンター コーディネーター：藤本・井上

受付時間：月～金曜日（祝日・年末年始を除く）電話：078-575-5711 FAX:078-575-5712

<https://kobe-iks.net/area/hyogo>



神戸市医療介護サポートセンター
ホームページ2次元コード